

22:54 彼らはイエスを捕え、引いて行って、大祭司の家に連れて来た。ペテロは、遠く離れてついて行った。

22:55 彼らは中庭の真中に火をたいて、みなすわり込んだので、ペテロも中に混じって腰をおろした。

22:56 すると、女中が、火あかりの中にペテロのすわっているのを見つけ、まじまじと見て言った。「この人も、イエスといっしょにいました。」

22:57 ところが、ペテロはそれを打ち消して、「いいえ、私はあの人を知りません。」と言った。

22:58 しばらくして、ほかの男が彼を見て、「あなたも、彼らの仲間だ。」と言った。しかし、ペテロは、「いや、違います。」と言った。

22:59 それから一時間ほどたつと、また別の男が、「確かにこの人も彼といっしょだった。この人もガリラヤ人だから。」と言い張った。

22:60 しかしペテロは、「あなたの言うことは私にはわかりません。」と言った。それといっしょに、彼がまだ言い終えないうちに、鶏が鳴いた。

22:61 主が振り向いてペテロを見つめられた。ペテロは、「きょう、鶏が鳴くまでに、あなたは、三度わたしを知らないと言う。」と言われた主のおことばを思い出した。

22:62 彼は、外に出て、激しく泣いた。

結局ペテロは恐くなってイエス様を裏切ってしまいました。それでも彼はイエス様が気になって、大祭司の家までついていった結果です。ですから主は彼を非難することはなさいませんでした。

今の時代も、主に従おうとしても中途半端に終わることがあって、結果的には自分の不信仰が表れてしまうかもしれません。しかし、それでも全く主から離れてしまうよりも良いのです。イエス様がペテロを見つめたのは愛のまなざしだったでしょう。だからこそペテロはそのようなイエス様を裏切ったことを後悔したのです。

イエス様の愛のまなざしをいつも感じましょう。たとえ信仰が不十分であったと感じても、それでも少しでも主に近づきましょう。その思いを主はわかってくれます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

